

令和2年度の会計プロフェッショナル育成プログラムに関する補足説明

例年、会計プロフェッショナル育成プログラムでは、新入生ガイダンスで公認会計士制度を説明し、当プログラムにおける入門科目に該当する商業簿記Ⅰの履修希望を受け付けていました。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大、およびそれに伴う緊急事態宣言の発令を受けて、今年度は新入生のガイダンスを対面では行いませんでした。これにより、外部の方の講演会という形で実施していた公認会計士制度の説明も実施できていません。そこで、ガイダンスで説明できない代わりに、この資料で会計プロフェッショナル育成プログラムについて補足説明をしたいと思います。

会計プロフェッショナル育成プログラムの目的や特色、内容等については、学生便覧で確認してください。基本的な内容に変更はありません。会計プロフェッショナル育成プログラムとしての提供科目について注意事項がある場合は、履修登録の前後や履修後の（遠隔）講義で適宜周知します。

公認会計士制度の説明

会計プロフェッショナル育成プログラムは、会計学に関連する職業専門人（公認会計士など）を育成するためのプログラムです。公認会計士制度を理解するためには、日本公認会計士協会のウェブサイトの情報や動画などが有用です（以下のリンクを参照）。公認会計士といえば、監査法人で勤務し、監査業務に関与することをイメージしがちですが、将来のキャリア選択の幅が広がる素晴らしい資格です。

- ・公認会計士とは

<https://jicpa.or.jp/cpainfo/>

- ・会計士に関する紹介の動画（アニメで理解しやすい内容です）

<https://jicpa.or.jp/sitemap/prmovie.html>

- ・会計士のキャリア形成に関する動画（短編でわかりやすくまとめられています）

<https://jicpa.or.jp/news/information/2019/20190222vvx.html>

- ・神戸大学卒業生の公認会計士試験合格体験記（先輩の公認会計士って、どんな人？）

<https://www.b.kobe-u.ac.jp/cpa/obog/>

商業簿記Ⅰの履修について

会計や公認会計士の資格に興味がなくとも、商業簿記Ⅰを履修し、まずは会計分野の科目に触れてみることを新入生には勧めています。そのため、例年は9割以上の新入生が商業簿記Ⅰを履修し、学習を始めています。そして、毎年6月に実施されている商工会議所の簿記検定試験では、多くの学生が3級に合格し、神戸大学は、全国平均を大きく上回る高い合格率を誇っています。今年度は、簿記検定試験の実施に不確実性があり、商業簿記Ⅰの単位認定方法も変更していますが、商業簿記Ⅰの内容を習得すれば簿記検定の3級合格レベルに、さらに、商業簿記Ⅱと夏期休業中に実施される工業簿記の集中講義の内容を習得すれば簿記検定の2級合格レベルに到達できます。受験のチャンスは年に3回ありますので、学習を進めていけば、6月以降に実施される検定試験で3級よりも上級の試験の合格を目指すことも可能です。

商業簿記Ⅰを履修できるのは1年生の第1クォーターのみです。詳しくは、商業簿記Ⅰの履修に関する注意事項を参照してください。